Creative Enzymes®

ネイティブモルモットトランスグルタミナーゼ

Cat. No. NATE-0715

Lot. No. (See product label)

はじめに

□明	モルモット肝臓からのトランスグルタミナーゼは、691のアミノ酸残基からなる単一のポリペプチド鎖で構成されています。6つの潜在的な糖鎖修飾部位（Asn-X-SerまたはAsn-X-Thr）がありますが、糖鎖修飾はされていません。分子量は約76.6 kDaです。カルシウム依存性であり、いくつかのカルシウム結合部位があります。この酵素は、カルシウムの存在下でヨードアセタミドおよびN-エチルマレイミドによって阻害されます。小分子量のアミンをタンパク質のγ-グルタミン部位に取り込む反□を触媒します。小分子量のアミンが存在しない場合、タンパク質の交差結合を触媒し、γ-グルタミル-ε-リジン側鎖ペプチドの形成を引き起こします。肝臓トランスグルタミナーゼは非酵素性の酵素です。
用途	このCreative Enzymesの製品は、組織トランスグルタミナーゼ（tTG）がグルテンペプチドを選□的に脱アミド化することを示すために使用されており、その結果、T細胞刺激活性が強く□強されます。また、A-グリアジンペプチドに□する免疫□答を評価するためにも使用されています。さらに、tTGがセリアック病において腸由来のT細胞によって認識されるグリアジンペプチドを選□的に修飾することを示すためにも使用されています。トランスグルタミナーゼは、ハンチントン病やアルツハイマー病などの疾患におけるトランスグルタミナーゼの役割を完全に特性評価するための定量的アッセイを改善する研究に使用されました。また、トランスグルタミナーゼ活性のための非放射性ドットブロットアッセイを開発する研究にも使用されています。
別名	トランスグルタミナーゼ; EC 2.3.2.13; 80146-85-6; トランスグルタミナーゼ; ファクター XIIIa; フィブリノリガーゼ; フィブリン安定化因子; グルタミニルペプチド γ-グルタミル転移酵素; ポリアミン・トランスグルタミナーゼ; 組織トランスグルタミナーゼ; R-グルタミニルペプチド:アミン γ-グルタミル転移酵素; タンパク質-グルタミン γ-グルタミル転移酵素

製品情報

種	モルモット
由来	モルモットの肝臓
形態	トリスとジチオエリスリトールを含む凍結乾燥粉末
EC番号	EC 2.3.2.13
CAS登□番号	80146-85-6
活性	> 1.5 ユニット/mg タンパク質
緩衝液	H2O: 可溶性 1.0 mg/mL、透明
単位定義	1ユニットは、pH 6.0、37°CでNα-Z-Gln-Glyとヒドロキシルアミンから1.0 µmoleのヒドロキサメートを1分あたり生成する触媒作用を持ちます。（L-グルタミン酸γ-モノヒドロキサメートが標準です。）

保管・発送情報

保存方法	−20°C